

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 稲城市立城山小学校

(※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒206-0803

東京都稲城市向陽台6丁目17番地

E-mail shiro001@educet.plala.or.jp

Website http://academic2.plala.or.jp/shiro-e

幼児児童生徒数 男子 175名 女子 195名 合計 370名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「城山大好き！稲城大好き！」をテーマとして、ESDの実践を通して環境教育、コミュニケーション、人権・命の教育、地域との関わり等を柱とし、ESDの視点をもった課題解決学習を行い、地域を基にしながら、日本、世界に視野を広げ、持続可能な社会について考え、身近なところから行動を起こす力を育成することを目標とした。

具体的には、生活科・総合的な学習の時間を中心に、環境・国際理解・食育・人権・命・地域とのかかわり関する学習を行った。

① 地域に係わる活動

3年「地域安全マップを作ろう」

学区の危険箇所を計画的に調べ、相互に発表し合うことを通して、安全で暮らしやすい町についての関心を深めることができることを目標として行った。通学路やよく遊ぶ公園を安全・危険な視点をもって調べ、発表することを通して、安全で暮らしやすい町について理解を深め、自分でできそうなことをやってみようとする姿が見られた。

② 福祉に係わる活動

4年「バリアフリーってなあに」

体験を通して、誰にとっても幸せな生活とは何かに気づき、自分たちでできることで人の役に立つことを考えることができることを目標に行った。障害者や高齢者の方々の思いや考えに関心をもつことができるようにした。点字・白杖体験、ブラインドサッカーなどの活動を通して、障害者や高齢者の方々にとってより住みやすくなるために自分たちに何ができるか考え行動しようとする姿が見られた。

③ 食育に係わる学習

5年「食べ物探検」

バケツ稲作り体験を通して、米作りの苦労や工夫に気付くとともに、自分たちの食生活にも関心を広げ、見直すことができるようにした。自分たちが普段食べているお米について実際に育てる活動を通して、米のよさや価値に気付くとともに、そこに込められた生産者の思いを知り、自分の食生活を見直し、改善していこうという思いをもつことができた。

④ 環境に係わる学習

6年「Let's go 野沢温泉村」

野沢温泉村の歴史や風土、特産物等について関心をもち、友達と協力して調べまとめた。そして、自分たちの住む 向陽台のよさを野沢の方に知ってもらうために、グループで協力して取材し、ガイドブックを作成した。帰校後、野沢での宿泊体験を通して、野沢温泉村の特産物や自然環境に関心をもち、自分なりに取材したことを、下級生に分かりやすく発表することができた。



地域安全マップを作ろう・発表



バリアフリーってなあに・車椅子体験



食べ物探検・バケツ稲作り

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

各学年、目的に応じ、様々な書籍、ウェブサイト、パンフレットを多数使用。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

学校の教育活動全体を通じて、人格の発達や自立心、判断力、責任感などの人間性を育むとともに、他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「かかわり」「つながり」を尊重できる児童を育成する。また、環境教育、コミュニケーション、人権・命の教育、地域との関わり等を柱として、ESDの視点をもった課題解決学習を行い、地域を基にしながら、日本、世界に視野を広げ、持続可能な社会について考え、身近なところから行動を起こす力を育成する。

これらのことを、目標にしつつ、「ESDの視点を念頭に置き、地域や身近な生活から自ら課題を見付けて、多面的に追及し、学び方やものの見方を身に付ける。」「地域や人と豊かにかかわって学ぶことを通して、主体的・創造的に探究する態度を身に付けるとともに、自己の生き方について考え、地域の人々等に発信し、地域社会への参画意識を高める。」「2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、自国や世界の国々を見つめ国際理解をはかるとともに、障がい者への理解も深め、多様な個性を認め合う姿勢を育む。」活動に取り組んできた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ESD 全体計画、および生活科・総合的な学習の時間を中心とした取り組みと他教科との関連を一覧にした ESD カレンダーを作成し、全体での共通理解を図っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ESD 活動報告書を作成する際に、ESD の視点をもった課題解決学習の実践報告を見合い、交流する。各学年ともに、教育活動全体を通して、質の高い実践が行われていると感じた。全体計画の見直しの際に改めて職員全体で振り返り、共通理解を図った。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

稲城市の ESD 推進委員会において本稿の実践を報告するとともに、他校の実践を学ぶことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

各学年ともに様々な団体や地域の方々をゲストティーチャーにお迎えし、多くの教育活動にご協力いただいた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

先進的な取り組みをしている ESD 推進拠点校の研究発表に参加させていただく機会があった。また、同じ中学校区内での交流を目指せば、という方向性は見出せたが、今年度は実現せず、今後の課題である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

個々の教師が ESD の視点をもって各教育活動に取り組みつつある。また、教師側からの投げかけだけでなく、児童の思いから活動が展開されていくことも増えてきた。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

本校はニュータウン地区ではあるが、周囲は比較的自然豊かで街並みが美しく、協力的な人材も多い。このような環境を生かしつつ、私たち教師は、「人と豊かにかかわらせたい。問題解決と情報発信の方法を身に付けさせ、その喜びを味わわせたい。」という願いをもっている。

今までに積み重ねられてきた実践を広げつつ、30年度も教育活動全体を通じて、多くのかかわりやつながりの中で主体的に考え、その思いや願いを実現使用とする児童の育成を目指したい。